

令和8年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」仮申請関係様式

市区町村名

10383南牧村

●令和8年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

課題の類型 1	課題の類型 2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために 令和8年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、 令和7年度における取組の評価・分析を 踏まえた取組	本事業で達成する目標 (アウトカム)	目標の達成度を 測る指標	現 状 の 数	単 位	本 年 度 の 目 標 値	本 年 度 の 実 績 値	アウトカムの達成度に関する評価・分析 (事業における成果、課題、改善点等)
②学校と地域の課題	03 学校支援ボランティアの確保・育成	令和6年度より小中学校が統合し、義務教育学校となったが、現在全校児童生徒数は19名、令和8年度は16名の予定である。今後も減少が見込まれるため、地域との連携協働事業が重要であり、本村だからこそできる特色ある学びの確立を目指している。しかし、現状地域側の主体性は芳しくない。原因としては学校の多忙さに遠慮したり、敷居の高さを感じたりしていることが伺える。	地域のヒト・モノ・コトを生かした本村だからこそできる体験重視の地域学習に取り組む。また、そこに様々な年代、立場の地域住民が関わることで、学校を訪れることに対するハードルを下げることもできる。学校側からのちよとしたお願いやイベントに参加できる学校支援チームを確立する。そのチームメンバーに情報を発信するメールマガジンを制作し、運営する。	令和7年度の12月に、学校支援チームを試験的に立ち上げた。第1回目の活動として子供たちと一緒に大掃除を行うボランティアを募集した。登録者10名のうち9名の参加であった。登録者数を増やしていくために、お願い等の情報だけではなく、学校通信やコミュニティ・スクール便り等のデータ発信を行う。まずは学校への興味関心がある方の登録を促し、そこからボランティアへの参加を増やしていく。	多様な地域住民との交流や体験活動を通して南牧のよさを知り、ふるさと南牧を愛する児童生徒を育成する。ふるさとへの愛着を健全な自尊感情につなげ、児童生徒がエージェンシーをより発揮することができる、地域とともにある学校・学校とともにある地域づくりを目指す。	学校支援チームの登録者数を増やす。	10	人	20		